

総務教育常任委員会資料

(平成30年4月20日)

〔件名〕

- ・公文書適正管理推進チームの設置について 【職員支援課】・・・1
- ・平成29年度第3回県庁働き方改革プロジェクトチーム会議の開催結果について 【職員支援課】・・・2
- ・平成29年度第4回鳥取県規制改革推進会議の開催結果について 【職員支援課】・・・3
- ・企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）対象事業の追加認定及びこれまでの実績について 【資産活用推進課】・・・4
- ・「新鳥取県史資料編・ブックレット」「公文書館研究紀要」の刊行について 【公文書館】・・・5
- ・平成29年度「占領期の鳥取を学ぶ会」の成果及び平成30年度の実施について 【公文書館】・・・6
- ・平成30年度企画展「小学生が体験した鳥取大火」について 【公文書館】・・・7
- ・首都圏における情報発信等について 【東京本部】・・・8
- ・関西圏における情報発信等について 【関西本部】・・・12
- ・名古屋における情報発信等について 【名古屋代表部】・・・14

総 務 部

公文書適正管理推進チームの設置について

平成30年4月20日
行財政改革局職員支援課

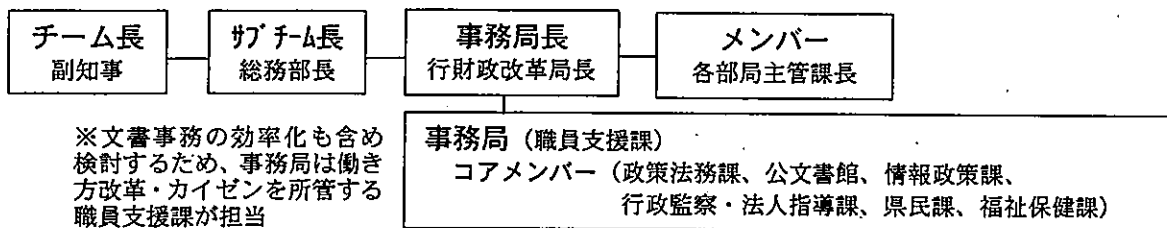
決裁文書の改ざんや文書の保存問題等、最近の公文書管理をめぐる課題に対応するため、文書管理の適正化及び働き方改革の視点による文書事務の効率化について検討を行う「公文書適正管理推進チーム」を4月6日（金）に設置し、同日、第1回チーム会議を開催しました。

1 「公文書適正管理推進チーム」の概要

(1) 設置趣旨

国における公文書の問題を他山の石として、本県における文書の適正管理を一層推進していくとともに、働き方改革と組み合わせて文書事務の適正化・効率化を図る。

(2) 体制



2 第1回チーム会議の概要

- (1) 日時 4月6日（金）午前10時～10時45分
- (2) 場所 第4応接室
- (3) 出席者 知事、副知事（チーム長）、総務部長（サブチーム長）、行財政改革局長（事務局長）、各部局主管課長、職員支援課（事務局）ほか
- (4) 議題 文書管理に係る課題の整理及び検討の方向性について
- (5) 概要

①文書管理に係る課題として確認したもの

- ・文書の保存期間の区分（1年、5年、10年、30年）等が妥当か。
- ・公文書館へ引き継ぐ歴史公文書の選別基準が適切か。 など

②今後の取組の方向性

- ・全所属での現状調査を実施し、文書の保存期間・歴史公文書等の選別基準を見直すとともに、仕事のやり方を標準化するためのガイドラインを作成する。
- ・懲戒処分等の指針に公文書を改ざんした場合について明記する。
- ・働き方改革の視点から文書業務の見直し・効率化を図る。
（公印省略文書（メール施行）の適用範囲の拡大、刷込印刷の拡大、システム改修など）
- ・文書監査、文書に関する研修を実施する。 など

3 今後の予定（スケジュール）

公文書管理、文書事務に係る調査結果のとりまとめ（5～6月）

→基準の見直し、ガイドラインの作成（年内通知）

→文書事務の効率化、適正管理、仕事のやり方の見直し（出来るものから速やかに）

→文書監査（年度内実施）

平成29年度第3回県庁働き方改革プロジェクトチーム会議の開催結果について

平成30年4月20日
行財政改革局職員支援課

国における働き方改革の動きや県職員の時間外勤務の増加等の状況を踏まえ、平成29年4月に設置した「県庁働き方改革プロジェクトチーム」について、第3回の全体会議を開催し、平成29年度の取組状況を報告するとともに、意見交換を行いました。

1 開催概要

- (1) 日 時 平成30年3月28日(水) 午後1時～2時
- (2) 場 所 県庁第3応接室
- (3) 出席者 副知事、各部局長等
- (4) 概 要

○平成29年度の取組については、時間外勤務の削減等、一定の成果を確認した
《時間外勤務に係るH29年度の目標》 → 《H29実績(暫定)》

①原則として月45時間以内、年360時間を目指す ②総時間数を30万時間台に (H28実績：43万時間)	→	総時間 386,306時間 ※月一人当たり13.3時間 〈H28実績〉 15時間
------------------------------------------------------------	---	---------------------------------------------------

- 所属長の意識が向上し、一層のマネジメント力の発揮につながった
(事務分担変更、他課からの応援を柔軟にして業務を平準化など)
⇒ 意識が薄れる前に「仕組み」として整える必要がある
- 共通業務での取組は全庁への改善効果が大きかった
(予算要求等の見直し、システム導入に伴う制度の簡素化 など)
⇒ 対象業務の拡大で更なる改善効果が期待できる
- カイゼン活動の継続で自主的な取組による成果が表れている反面、取組状況の濃淡があり、優良事例が十分に波及していない
⇒ わかりやすく丁寧な横展開により改善効果を全庁に広げる

2 平成30年度の取組内容(※4月下旬の第1回全体会議で取組方針を決定)

<カイゼン、仕事のやり方の見直し・適正化 / 時間外勤務縮減>

- 庁内ルールの再徹底
- みんなで取り組む「カイゼン活動」【リニューアル】
⇒ 所属内の取組、部局内の取組を活性化させる仕組みづくり
- 全庁共通業務について改善検討する「カイゼン検討チーム」【新】
⇒ (例) 予算、決算、条例・規則、監査、会計検査、災害、イベント等
- AI等の活用を検討する「AI活用ワーキングチーム」【新】
- 事務の点検、適正化 ⇒ 「公文書適正管理推進チーム」【新】

<働き方の選択肢の拡大 / 働きやすい環境づくり>

- サテライトオフィス、在宅勤務の拡大
⇒ モニター利用で課題抽出、利用可能な業務の洗い出し【新】
- モバイル端末の活用【新】⇒ 端末の一括調達、テレビ会議の拡大、在宅・モバイル勤務の拡大

3 今後のスケジュール(プロジェクトチーム)

- 4月下旬 第1回全体会議で取組方針決定
→10月頃 第2回、年度末 第3回

平成29年度第4回鳥取県規制改革会議の開催結果について

平成30年 4月20日
行財政改革局職員支援課

規制の緩和や廃止、手続きの簡素化等に関する県民からの提案に係る県の対応方針案等について、ご意見をいただくため、第4回鳥取県規制改革会議を開催しました。

1 開催概要

- (1) 日時 平成30年3月22日(木) 午後1時～2時30分
- (2) 場所 県庁、中部総合事務所、西部総合事務所にてテレビ会議システムを利用して開催
- (3) 委員構成 8名(座長：鳥取大学副学長、委員：金融機関、福祉団体、商工団体、農業団体、市町村職員、公募委員2名)

(4) 開催結果

ア 規制改革提案に係る各所管課の対応方針案の報告

規制改革会議委員からの提案事項2件に係る対応方針案を報告し、委員から特に異論なく了承を得た。

- ・ 支え愛マップづくりの事業募集について、町内会の会計期間(1～12月)を踏まえ、早期に開始すること
⇒平成30年度募集分より、県議会で予算が議決されることが前提である旨を付記した上で、自治会等の会計年度である1月から広報を始めた。(危機管理政策課)
- ・ 託児機能付きサテライトオフィスにおいて、パソコンを使う事務仕事だけでなく、コンサルティングやエステなどの仕事にも利用できるようにすること
⇒サテライトオフィスは企業のテレワーク試行の場として設置しており、エステ等は想定していないが、県内市町が実施中のチャレンジショップ事業はサービス業等の創業時に活用可能であり、当該事業の活用を周知していく。(女性活躍推進課、産業振興課)

イ 行政手続コスト削減に係る取組結果の報告

「県民の補助金や許認可の手続に要する時間を平成29年度末までに30%削減できる環境を整備する」という目標を掲げ、電子申請システムの活用、Q&A・チェックリストの作成、申請書の様式の見直しなどに取り組んだ結果、30.9%の削減となり、目標を達成したことを報告した。

ウ 今後の取組方針案の説明

規制改革提案につながる現場の声を掘り起こすため、これまでの県民からの提案募集に加え、平成30年度から委員と業界団体等との意見交換を実施することについて了承を得た。

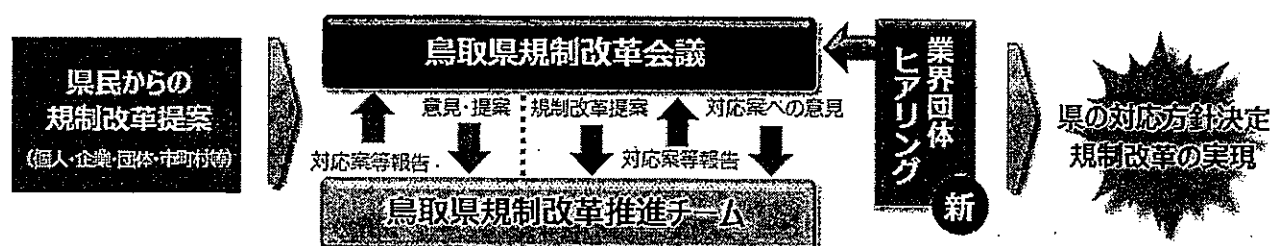
2 平成30年度取組内容

(1) 規制の改革について

- ・ 引き続き規制改革に関する県民提案を募集すると共に、現場の声を掘り起こし、規制改革に繋げる取組を強化するため、新たに規制改革会議委員と業界団体との意見交換(ヒアリング)を実施する。⇒委員が意見交換の内容を踏まえ、規制改革の提案を行う。

(2) 行政手続きの見直しについて

- ・ 県民へ電子申請システムの利便性を周知し、利用拡大を推進する。
- ・ 引き続き申請書様式等の簡素化の取組を進める。



企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）対象事業の追加認定及びこれまでの実績について

平成30年4月20日

行財政改革局資産活用推進課

地域再生法に基づき、企業版ふるさと納税の対象事業として国に申請していた次の3事業について、3月30日に追加認定されました。

なお、この事業の推進にあたっては、その趣旨に御賛同いただいた複数の企業様より寄附の内諾をいただいています。

○追加認定を受けた事業の概要

(以下、敬称略)

事業名	事業概要	事業費	寄附内諾企業
ととりの保育現場で活躍する学生応援プロジェクト (子育て応援課)	県外の保育士養成施設に在学する学生に対し、県内保育施設で実習等を行う場合の旅費の一部を助成し、県内保育施設へのUターン就職の促進を図る。	全体：1,200千円 30年度：600千円	2社 フジキコーポレーション(株) (株)不二家システムセンター
健康づくり文化創造プロジェクト (健康政策課)	健康づくりに資する取組に対してポイントを付与し、県内に居住する誰でもどんな健康づくりでもポイントがもらえる取組(健康マイレージ事業)を実施し、健康意識の醸成等を図る。	全体：2,000千円 30年度：1,000千円	2社 日本生命保険相互会社 (株)不二家システムセンター
世界に誇れる「星取県」ブランド化推進プロジェクト/鳥取県の美しい星空が見える環境の保全と活用 (観光戦略課、環境立県推進課)	本県が誇る日本一美しく、手に取れそうなほど星が近い「星取県」の情報発信とともに、「星取県」ブランド化の一層の推進を図る。 併せて、美しい星空が見える環境を将来にわたって守り活かすため、星空の解説ができる人を育成する。	全体：1,500千円 30年度：750千円	3社 サントリープロダクツ(株) (株)山陰合同銀行 (株)不二家システムセンター

※個々の企業様の寄附金額については、意向を踏まえ、公表しないこととしております。

※県内市町村においては、今回認定された市町村(事業)はありません。

○これまでの実績(既認定分)

事業名	事業概要	事業費	寄附企業
[H28.8.2認定] 鳥取県未来人材育成奨学金支援プロジェクト	大学生等の地元定着・県内就職を促進させるため、県内の助成対象業種に就職する場合、借り入れた奨学金の返還額の一部を助成する。	全体：800,000千円 28年度：125,751千円 29年度：126,875千円	[H29年度] あいおいニッセイ同和損害保険(株) [H28年度] (株)山陰合同銀行、(株)不二家システムセンター、サントリープロダクツ(株)、(株)エスエムオー、(株)インフォメーション・デバイス、損害保険ジャパン日本興亜(株)、石川可鍛製鉄(株)、(株)ソフトウェア・サービス
[H29.3.28認定] とっとり未来創造型起業支援事業	県内産業・経済に大きなインパクトを与えるような成長性の高い起業創出のため、起業を志す人に対して合宿方式で支援する。	全体：16,848千円 29年度：3,615千円	[H29年度] 三菱UFJリース(株)

※県内市町村の既認定事業…江府町「遊休農地を活かした6次産業化推進事業」(H28.8.2)のみ

○今後の動き

引き続き、認定事業への新規寄附企業の確保に取り組むとともに、企業の賛同が得られるような事業を充実させ、新たな寄附につながるよう努めていきます。

また、県内市町村に対しては、これまで説明会や個別相談会(倉吉市、北栄町)を実施し、周知を図ってきましたが、引き続き個別に情報提供するなど制度活用を促していくこととしています。

<参考>：企業版ふるさと納税(地方応援税制)の概要

○県外に本店がある企業が、地方創生を活性化させる目的で、地方公共団体が実施する地方創生事業に寄附をすると、寄附額の約6割の税負担が軽減される。

※税負担軽減効果…〔通常の損金算入(約3割)〕+〔法人事業税、法人住民税及び法人税(約3割)〕

○対象期間は平成28年度から平成31年度までの4年間。

○寄附の下限額は10万円と比較的低額であり、企業が積極的に社会貢献(CSR)活動に取り組むことができる。

○自治体が企業からの寄附を募るためには、地域再生計画(対象となる事業の計画)を策定して国の認定を受ける必要がある。

平成30年4月20日

公文書館

このたび、公文書館では鳥取県の歴史に関する調査・研究の成果をまとめた以下の書籍を刊行しました。

1 書籍の名称および体裁・頒布価格

(1) 新鳥取県史資料編

*本文の内容を収めたCD-ROMが附録に付いており、語句の検索が可能です。

◇『考古3 飛鳥・奈良時代以降』

(概要) 本巻には、鳥取県内の飛鳥・奈良時代以降、明治時代に至るまでの主要な223遺跡について、その概要と遺構図・遺跡図を掲載しています。この中には彩色仏教壁画の発見で有名な上淀廃寺をはじめ、近世のたたら場跡や幕末に各地に築かれた鳥取藩の台場跡などが含まれています。原始・古代だけでなく近代までの考古資料を幅広く収録した資料集というのは全国的にもあまり例がなく県内では初の資料集となります。

(A4判上製本 805頁 7,000円)

◇『近世4 因幡上』『近世5 因幡下』

(概要) 本巻には、江戸時代の因幡地域に関する資料計215点を収録しています。上巻には江戸時代の神社の基本台帳である「神社改帳」などの寺社関係資料や鹿野藩主亀井家に関する資料を収録しています。また下巻には因幡各地の庄屋関係の資料を多く収録しています。このうち下巻の「熊谷家文書」(気多郡志加奴村)には、江戸幕府の役人であった伊能忠敬が鹿野に來訪したときの記録等が含まれています。伊能忠敬一行の因幡滞在時の記録はほとんど確認されておらず、貴重な史料です。

(A5判上製本 上741頁/下1059頁 各5,000円)

◇『近代5 行政2・社会・宗教』『近代7 産業・教育・文化』

(概要) 本巻には明治～戦前期の行政資料や、宗教・産業・教育・文化に関する資料を多数収めています。このうち「近代5」には明治時代の大山寺に関する資料や、戦時下の社会生活等に関する重要資料約400点を収録しています。また「近代7」には近代鳥取の教育に関する資料のほか、日野郡の近藤家に伝わるたたら製鉄関係の資料や戦前期の産業や文芸に関する資料約330点を収録しています。

(A5判上製本 近代5:865頁/近代7:759頁 各5,000円)

(2) 鳥取県史ブックレット

◇鳥取県史ブックレット1.9『森と生きた人々―鳥取県の遺跡から―』

著者:中原 計(なかはら けい)氏(鳥取大学地域学部地域学科 准教授)

(概要) 鳥取県内の古代遺跡からは、人々が用いた道具や建築部材をはじめ、多種多様な木製品が多く出土しています。本書は、青谷上寺地遺跡をはじめ、鳥取県内の遺跡から出土した木製品を中心に、古代の人々の木材利用や森林とのかかわりについて具体的に明らかにしています。

(A5判 94頁 500円)

(3) 研究紀要

*紀要とは、研究機関や大学等で定期的に出す研究論文集のことです。

◇『鳥取県立公文書館研究紀要』第9号

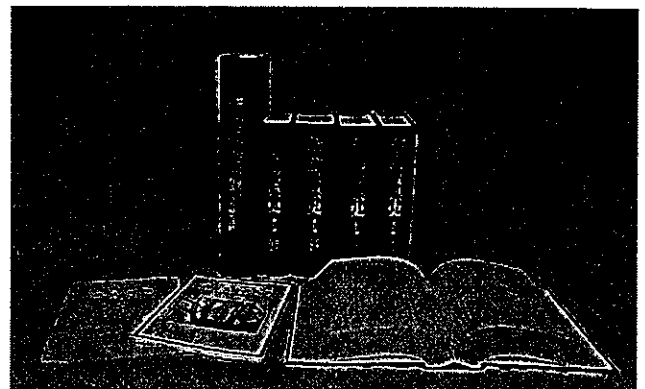
(概要) 本号には平成29年5月に開催した歴史公文書等保存条例制定記念シンポジウムの講演録や鼎談、シンポジウム聴講者の投稿論文、北海道移住や鳥取大地震に関する論文等、あわせて5本の原稿を収載しています。

(A5判 95頁 500円)

2 頒布開始日 4月23日(月)

3 頒布窓口・頒布方法

- *公文書館、県民課、各総合事務所のほか、ブックレットは県内の一般書店、県立博物館、鳥取市歴史博物館でも販売します。
- *県外の方や窓口での購入が困難な方には当館から直接送付させていただきます。
- *支払いについては、銀行振り込み以外にクレジットカードによる支払いも可能となりました。



4 30年度の刊行予定

新鳥取県史資料編 『近世6 因幡歴年大雑集』『現代1 政治・行政』『民俗2 民具編』
鳥取県史ブックレット 20・21巻(考古分野・近世分野)

平成29年度「占領期の鳥取を学ぶ会」の成果及び30年度の実施について

平成30年4月20日
公文書館

これまで資料が少なく不明な部分が多かった占領期の鳥取県内の様子について明らかにするため、昨年度月1回の連続講座として実施した「占領期の鳥取を学ぶ会」では、GHQ鳥取軍政部活動報告の英文解読を通じて、本県が直面した占領期の諸課題とその対策、進駐軍と県民との関係の変化等が明らかになってきました。

また、この会で実施した県民参加による英文解読活動や進駐軍接收住宅の見学会、幼少期に占領期を体験した有識者による鼎談、学芸員や翻訳者等による研究報告等により、占領期に対する県民の関心も高まり、さまざまな情報が寄せられています。

については、平成30年度もこの会を継続実施し、軍政部活動報告の解読を中心に、県民との協働の取組として戦後史の調査研究を進めていきます。

1 平成29年度の活動概要

(1) 開催状況

- 7月1日 占領期の鳥取を学ぶ会立ち上げ（進駐の経緯とGHQの基礎知識を解説・120名参加）
- 7月29日～ 鳥取軍政部活動報告の英訳解読と解説（6回）（S21.8～22.4の資料を解読、延67名参加）
- 10月14日 樗谿グランドアパート（将校宿舎となった上町佐々木邸）見学会（18名参加）
- 11月14日 鼎談 鳥取に進駐軍がいた頃（清末忠人さん・松田章義さんによる占領体験報告・74名参加）

(2) 英文解読により判明した主な内容

- 活動報告書は本文及び附属書類（政治行政・福祉・公衆衛生・経済の各分野）からなり、1報告あたり平均20頁程度。当時県下で取り組まれていた感染症対策、労働組合の活動、朝鮮人帰還、賠償指定工場の保全管理、新聞の発刊、歩行者の右/左側通行規則、境港から朝鮮・沖縄への連合軍用住宅資材の積み出しなどの状況について記されている。
- 昭和22年4月の県知事選・市町村議員選では、ノーラン軍政隊長率いる選挙監視班が結成され、選挙管理委員会の指導と選挙監視を行った。二十世紀梨の生育状況調査（S21.9）、鳥取農業専門学校の視察（S21.9）、畜産試験場の視察（S22.3）など本県農業への関心が高い。
- 進駐軍と県民の関係は良好に推移。ただし、進駐軍兵士による事故や犯罪もたびたび発生。

(3) 活動を通じて発見・報告のあった写真・資料

- イギリス連邦軍による美保飛行場建設中の動画（オーストラリア戦争記念館所蔵）、米子市上空を飛行する英空軍機、英連邦軍のクリスマスパーティー、憲兵隊が接收した米子経済部ビル（現・米子商工会議所）、鉄道管理部が置かれた米子駅などの写真
- 米情報部接收住宅（鳥取市西町）の接收解除時の書類及び図面、県内連合軍関係電話回線図
- 「鳥取市報」（昭和21年6月版）に掲載された進駐軍からの感染症への注意喚起記事
- 鳥取大火（昭和27年4月）後に米兵站司令部から届いたレーション（救援物資）等

2 平成30年度の開催予定

- (1) 日時 毎月第2土曜日 午後2時から4時まで ※第1回は5月12日（土）
- (2) 会場 鳥取市歴史博物館やまびこ館（鳥取市上町88）地下1階研修室
- (3) 内容 鳥取軍政部活動報告の英文解読と解説、※占領体験聞き取り・フィールドワークも予定
- (4) 人数 毎回10名程度（随時参加可能）
- (5) 主催 鳥取県立公文書館県史編さん室、鳥取市歴史博物館
- (6) 共催 鳥取県社会福祉協議会・とっとりいきいきシニアバンク「生涯現役」

企画展「小学生が体験した鳥取大火」の開催について

平成30年4月20日
公文書館

昭和27(1952)年4月17日に発生した鳥取大火について、当時の小学生が大火をどのように体験し、何を感じたのか、久松小学校が大火の翌年(昭和28年)に作成した、今回初公開となる文集を中心に、関連史料・写真など約10点を展示して、紹介します。

1 会期 4月16日(月)～5月15日(火) 午前9時から午後5時まで
【4月16日(月)午前11時から開始。祝日は休館】
※入場無料

2 場所 公文書館1階展示コーナー

3 主催 公文書館

4 展示資料

(1) 久松小学校『鳥取大火災思い出文集 火の海』(昭和28年作成)

久松小学校2～6年生の児童26名が鳥取大火当日を振り返った文集(初公開)

(2) 久松^{きゅうしょう}小学校・醇風^{じゅんぷう}小学校・遷喬^{せんきやう}小学校各校の沿革史

(3) 焼失及び新築校舎などの写真5点、大火延焼図

(4) 鳥取大火を報じた当時の英字新聞の切り抜き

※(1)(3)(4)は公文書館所蔵、(2)は各校から借用

<参考>

1 鳥取大火に係る近年の展示

- ・平成29年度「鳥取大火の写真展」
- ・平成28年度「鳥取大火の初公開写真」
- ・平成27年度「63年前の鳥取大火」

2 鳥取大火の概要

昭和27(1952)年4月17日午後2時55分頃、鳥取市吉方の市営動源温泉付近から出火。同日は、フェーン現象による強い南風が吹いていたため、火は瞬く間に燃え広がり、旧市街地の3分の2が焼失した。鎮火は、火災発生から約12時間後の翌18日午前3時頃。大火による被害は、死者2人、負傷者3,966人、罹災者数は24,000人に上った。出火原因は特定されていない。

首都圏における情報発信等について

平成30年4月20日
東京本部

首都圏における観光・物産・移住定住に係る情報発信等の主な取組について以下のとおり報告します。

1 観光に係る情報発信の主な取組

(1) メディア・外国人ライター等の招へい

平成29年10月26日(木)に八芳園にて開催した首都圏在住外国人との関係構築懇談会出席者の中から、首都圏在住の外国人に向けた情報発信を目的に、一橋大学大学院教授(兼 旅行ライター)等を鳥取県に招へいし、県内取材を行った。

ア 日程：平成30年2月16日(金)～17日(土)

イ 取材先：法勝寺皆生窯、清水庵、久楽、白壁土蔵群(倉吉絣着付、製作風景)、梅津酒造、若林商店(蟹)、鳥取砂丘にて星空観測(佐治アストロパーク職員の説明)、若桜氷ノ山スノーシュー、ダイニングカフェ「新」、不動院岩屋堂(国指定重要文化財)、民藝美術館



ウ 来県者(外国人3名)

ウィッキー エル バイヤー
Vicki L. Beyer

一橋大学大学院教授(兼 旅行ライター 国籍：アメリカ合衆国、オーストラリア)

アリー ホンマ
Ally Homma

サヴィー トーキョー
「Savvy Tokyo」編集長(国籍：ブルガリア)

ヴィクトリア ヴリシディーズ
Victoria Vlisides

ガイジンポット
「GaijinPot」コンテンツマネージャー(国籍：アメリカ合衆国)

エ 来県者の所感等

- ・倉吉絣を着ての街歩きを体験。丁寧に緻密な作業を経てやっと一枚の反物が完成し、その反物から絣の着物が作られることに感動した。
- ・梅津酒造での酒造りの解説やストーリーを聞き、紆余曲折を経て完成した梅酒「野花(のきょう)」や日本酒の説明を聞いた後の試飲はまた格別だった。
- ・若桜氷ノ山でスノーシュー体験をし、氷ノ山自然ふれあい館 響の森のガイドの方々が雪で作った机や椅子を準備して温かい飲み物を出すおもてなしに感動した。その日、その瞬間にしかできない体験、巡り合えない景色に圧倒された。
- ・不動院岩屋堂をガイド付きで見学。ゆっくりと雪が舞い落ち、周囲の木々に降り積もる姿と静けさ、岩屋堂の荘厳な雰囲気感動的だった。

⇒ 記事は、3月中にJAPAN TODAY(英字ニュースサイト、月間407万ビュー)、GaijinPot(在住・訪日外国人向け総合情報サイト、月間370万ビュー)、Savvy Tokyo(在東京の外国人女性を対象にした生活情報サイト 月間17万ビュー)に掲載された。

(2) 鳥取県×ことりっぷ連携イベント「鳥取民藝の旅講座」【新規】

ガイドブック「ことりっぷ」(昭文社発行)と連携し、「ことりっぷ」の会員である首都圏在住の20～30代の女性を対象に、民芸、食、観光地など鳥取県の魅力を伝えるイベントを開催した。

ア 日程：平成30年3月15日(木) 午後7時から午後8時30分まで

イ 場所：とっとり・おかやま新橋館 2階 催事スペース

ウ 参加者：首都圏在住の20～30代の女性 32名

エ 内容：鳥取県の紹介、鳥取県の民芸、食、観光地等に関する旅トーク、鳥取県食材を使用した軽食とデザートを提供、因州和紙ブックカバーづくり体験

オ 実績・反響等

- ・鳥取県の民芸や食について、県出身者と非出身者両方の目線で紹介し、イベント終了後のアンケートでは参加者の97パーセントから鳥取に行きたくなったと回答があった。

- ・県産米のおにぎりやらっきょう、乳製品等、素材の美味しさに感動する声が多く聞かれた。



2 観光と物産が連携した情報発信の取組について

(1) 中国5県観光物産フェア in 港区役所

昨年7月に北栄町と合同でお台場でのイベントに参加した縁から港区との交流が始まったところであり、港区の協力を得て、首都圏での中国五県の認知度向上及び誘客を図るため、特産品の販売及び観光PRを実施した。

ア 日程：平成30年2月6日(火)～9日(金)

午前11時から午後3時まで

イ 場所：港区役所1階ロビー

(港区芝公園一丁目5番25号)

ウ 主催：中国五県物産観光協議会(幹事：鳥取県)、
港区全国連携推進担当

エ 実績・反響等

- ・来場者からは「中国地方について知らないことが多かった」、「観光パンフレットで観光情報を入手することができて参考になった」、「中国地方へ行ってみたいになった」等の反響があった。特産品販売や観光パンフレットの配布を通して、認知度向上が図られた。

- ・事前告知など港区の協力もあり、大勢の方にお越しいただくことができた。各県ともに菓子類や水産加工品、日本酒などの販売が好調だった。



(2) 春の名橋「日本橋まつり」での県産品販売及び観光PR

「日本橋」全体を車両規制して行われた「第25回春の名橋日本橋まつり」に鳥取県ブースを出展し、特産品の販売及び観光PRを行った。

ア 期間：平成30年4月8日(日)

午前10時から午後3時まで

イ 場所：日本橋全体(東京都中央区日本橋)

ウ 出展内容：

- ・鳥取県ブースにおいて、焼きかきせんべいや砂丘珈琲サブレ等の菓子類、砂丘らっきょうや生干しほたるいか等の農水産物の加工品を販売した。

- ・観光パンフレットの配布も行った。

エ 実績・反響等

- ・晴天に恵まれ人通りも多く、準備した商品はほぼ売り切れた。

- ・来場者からは「毎年、鳥取県の出展を楽しみにしている」、「とっとり・おかやま新橋館で鳥取県のお菓子や野菜を購入したことがある。美味しいものも多く、いつか行ってみたい」等の反響があった。

- ・主催者の事務局を担っている日本橋三越の案内に応じて6年間継続出展し、オープニングセレモニーで特別に東京本部長とトリピーを紹介していただく等、信頼関係の強化に結びついている。



3 県産品に係る情報発信の取組について

(1) 東大生が考えた！「こんな鳥取を食べてみたい」料理発表会での県産品PR【新規】

地方の食に関して強い関心を持ち、将来多方面での活躍が見込まれる大学生が県産食材や風土を料理として表現する発表会を開催し、主に若い世代を対象に鳥取県の豊かな風土や食文化の認知度の向上を図った。

ア 日 時：平成30年2月5日（月） 正午から午後1時半まで

イ 場 所：とっとり・おかやま新橋館2階催事スペース

ウ 実施内容

- ・東大生4名3グループによる県内生産現場の視察状況、考案した料理レシピなどの研究成果の発表。
- ・参加者による学生考案料理の試食。

エ 実績・反響等

- ・イベント参加者40名（うち、メディア6社：日本海テレビ、日本海新聞、山陰中央新報、中国新聞、産経新聞、旅行読売出版社）
- ・考案されたメニュー4品は試食会で好評であり、とっとり・おかやま新橋館にて期間限定でメニューとして提供した。
- ・参加した学生からは「鳥取県の特産食材を殆ど知りませんでした。現地を視察して色々な食材を食べて鳥取をよく知ることができました」、「鳥取県は肉・魚・野菜・果物全てがそろそろ食材の宝庫の県だということがわかりました」等の反響があった。
- ・料理のレシピを1階の食品売り場で配布するなど活用することとしている。



(2) 百貨店、高質型スーパー等での県産品PR

百貨店や高質型スーパー等で県産品をPRする物産フェアを開催した。

ア 三越日本橋本店での鳥取特集

期 間：平成30年1月17日（水）～22日（月）

場 所：三越日本橋本店（東京都中央区日本橋室町1-4-1）

来店者：約60,000人

イ スーパーマーケット「三徳」での山陰・山陽フェア

期 間：平成30年1月20日（土）から23日（火）まで

場 所：スーパーマーケット「三徳」の各店舗（34店舗）

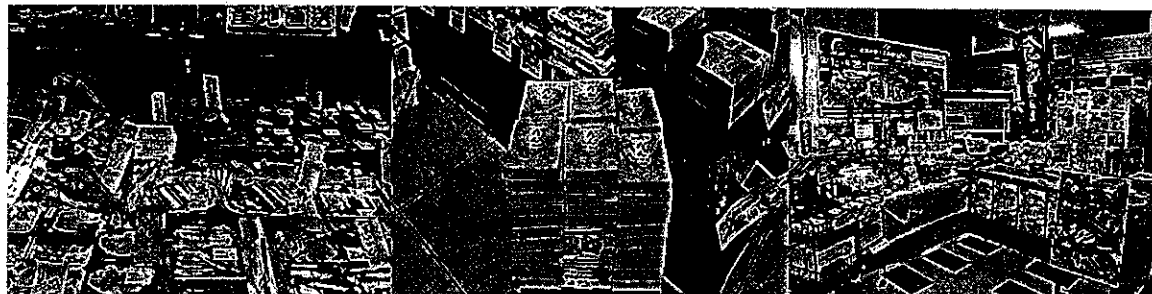
来店者：約136,000人

ウ スーパーマーケット「よしや」での鳥取フェア

期 間：平成30年2月1日（木）から28日（水）まで

場 所：スーパーマーケット「よしや」の各店舗（12店舗）

来店者：約336,000人



4 ハローワーク・移住定住に係る情報発信の主な取組

転職フェアへの出展

昨年7月3日に東京本部内に開設した県立東京ハローワークの認知度を上げ、登録者を増加させる機会を得るため、求職者からの知名度・信頼と発信力・集客力がある大手転職サイトの主催する「転職フェア」など、可能な限り多くのイベント等に参画し「打って出る」取組を行った。

ア 日時・場所等

- ・マイナビ転職EXPO【新規】 1月27日(土) 11時から17時まで
- ・DODA転職フェア【新規】 2月2日(金) 14時から21時まで

イ 実績等

- ・マイナビ転職EXPO(33名受付)、DODA転職フェア(49名受付)と、多くの転職希望者との面談の機会を得た。
- ・転職フェアへの参加者の多くは首都圏での転職を考えておられるが、なかには就業・居住の場所にこだわらない方、地方を希望する方もおられるため、今後につながる方を把握し、接触を継続していく。



5 今後の情報発信の取組について

今後とも鳥取県の旬の特産品、特色のある観光素材、魅力的な移住定住や企業誘致等の情報発信について、積極的に展開していく。

イベント名	時期	場所	内容
住む・働く・鳥取県移住フェア	平成30年5月19日	東京交通会館 (千代田区有楽町)	IJUターン希望者と面談、各種制度の紹介等
らっきょう漬け方講習会	平成30年6月3日	コトラボ阿佐ヶ谷 (杉並区阿佐ヶ谷)	らっきょうの漬け方の体験講習会を開催
鳥取県産スイカPRキャラバンの実施	平成30年6月中旬	首都圏の各メディア	鳥取県産スイカをメディアに向けてPR
伊勢丹浦和店での鳥取フェア	平成30年6月27日～7月3日	伊勢丹浦和店 (埼玉県さいたま市)	県産品の販売を実施予定
スーパーマーケットいなげやでのスイカPR販売	平成30年6月下旬	スーパーマーケット いなげや各店舗	県産スイカの販売を実施予定
雑誌「天然生活」と連携した大山PR	平成30年7月	とっとり・おかやま新橋館催事スペース	大山のPRを実施予定
海外メディアの大山取材ツアー	平成30年8月	県内西部地区	首都圏駐在の海外メディアの大山取材を実施

関西圏における情報発信等について

平成30年4月20日
関 西 本 部

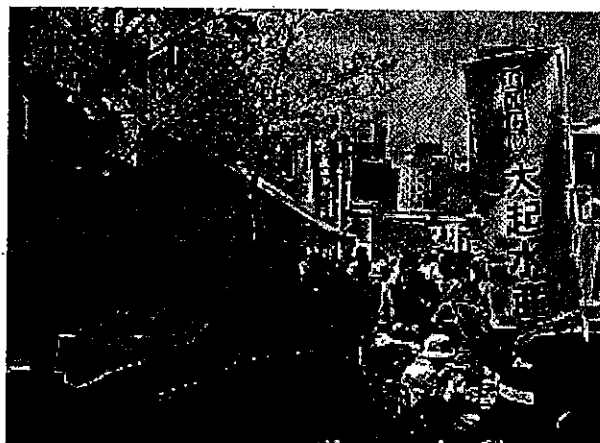
関西本部では、関係機関と連携しながら大阪駅等多くの集客がある会場でのイベントの開催や各種媒体を活用した観光情報の発信など、鳥取県の知名度向上と関西から鳥取県への誘客につなげる取組を行っています。

【イベント等の開催、実施状況】

1 八軒家浜市での観光物産PR〔実施済〕

- (1) 実施日：平成30年4月1日（日）
- (2) 場 所：川の駅はちけんや（大阪市中央区）
- (3) 主 催：大起水産（株）（協力：鳥取県漁業協同組合、鳥取市）
- (4) 概 要：大起水産（株）のイベント「天下の台所・八軒家浜」において旬のモサエビ、ワカメ、鳥取観光のPR等を行った。

[当日の様子]



2 鳥取県観光PRイベント〔実施済〕

- (1) 実施日：平成30年4月15日（日）
- (2) 場 所：JR大阪駅・大阪ステーションシティ（大阪ステーションシティシネマ・時空の広場）
- (3) 概 要：「名探偵コナン」の新作映画『ゼロの執行人』公開にあわせ、映画館出入口付近で江戸川コナン君やとっとり観光親善大使とともに鳥取県をPRした。また、時空の広場ステージで「鳥取県観光PR」、「コナン君とのじゃんけん大会」等で鳥取観光をPRした。
今年度は同会場でコナンカフェの営業もあり、家族連れや若い方を中心に、じゃんけん大会に長い行列ができるなど、盛況であった。

[当日の様子]



3 道頓堀★春フェス2018での鳥取県観光PR〔予定〕

- (1) 実施日：平成30年5月3日（木）～4日（金）
- (2) 場 所：とんぼりリバーウォーク（大阪市中央区）
- (3) 主 催：一般社団法人大阪活性化事業実行委員会
- (4) 概 要：大阪ミナミ道頓堀で開催される春の大型イベントに、鳥取県内の民間事業者とともに参加し、初夏の鳥取グルメや観光地・観光素材をアピールするとともに、関西から鳥取県への観光来訪を呼びかける。

4 JR西日本・阪急高槻フェスティバルでの鳥取県観光PR〔予定〕

- (1) 実施日：平成30年5月5日（土）
- (2) 場 所：西武高槻店
- (3) 主 催：西日本旅客鉄道（株）、阪急電鉄（株）
- (4) 概 要：JR西日本と阪急電鉄主催のイベントに参加し、山陰デスティネーションキャンペーンや大山1300年祭など鳥取県の観光の魅力をとっとり観光親善大使やしゃんしゃん傘踊りのステージを通じ発信する。

5 春季 鳥取県観光情報説明会及びインバウンド関係鳥取県観光情報説明会の開催〔予定〕

- (1) 実施日：平成30年5月9日（月）
- (2) 場 所：フェスティバル スイート（中之島フェスティバルタワー37階）
- (3) 主 催：公益社団法人鳥取県観光連盟・鳥取県関西本部
- (4) 概 要：公益財団法人鳥取県観光連盟が主催する国内旅行会社向けの鳥取県観光情報説明会にあわせ、外国人の訪日旅行を担う旅行会社向け観光情報説明会を開催し、鳥取県の観光の魅力を発信することで訪日外国人の誘客・送客を図る。

6 高速道路サービスエリアでの観光PR

- (1) 実施時期：平成30年4月1日（日）から平成31年3月31日（日）
- (2) 概 要：①鳥取県観光マップ等の配架：宝塚北サービスエリア等4か所（随時配架）
②高速道路媒体への広告掲載：NEXCO西日本エリア（7月、8月、12月掲載）
- (3) そ の 他：宝塚北サービスエリアでの観光PRイベント実施に向けてNEXCO西日本と調整中。

名古屋における情報発信等について

平成30年4月20日

名古屋代表部

1 鳥取県の観光情報の発信

(1) ハッピーママフェスタ2018【実施済】

ナゴヤドームで若い親子を対象にしたイベントに参加し、大山開山1300年や鳥取砂丘など県内観光地のPRを行いました。

- ① 日 程：2月23日（金）～25日（日）
- ② 場 所：ナゴヤドーム
- ③ 参 加：名古屋代表部、（公社）鳥取県観光連盟
- ④ 内 容：観光大使によるPRステージ、砂絵、砂の瓶詰めなどのゲームや観光資料の配付など

(2) 旅まつり名古屋2018【実施済】

全国の観光や旅行関係者が集まる旅まつりで、県内観光関係者と共に参加し、ステージでのPRや観光パンフレットなどを配布し、鳥取県の観光PRを行いました。

- ① 日 時：3月17日（土）～18日（日）
- ② 場 所：久屋大通公園（名古屋市中区栄）
- ③ 参 加：名古屋代表部、（公社）鳥取県観光連盟、砂の美術館、鳥取中部観光振興機構、
大山山麓観光推進協議会
- ④ 内 容：観光パンフレットの配布、砂絵制作、サザエの殻積みなどのイベント、PRステージなど
- ⑤ 来場者数：約30万人

(3) 高速道路SAでの県ブース出展【実施済】

東海地方のSAで最も立寄客の多い刈谷ハイウェイオアシスにブース出展し、新名神高速道路（高槻～神戸JCT間）の開通でより近くなった鳥取県をPRしました。

- ① 日 時：3月24日（土）、25日（日）
- ② 場 所：刈谷ハイウェイオアシス（伊勢湾岸自動車道）
- ③ 参加主体：名古屋代表部、（公社）鳥取県観光連盟
- ④ 内 容：観光パンフレットの配布、缶バッジや砂の瓶詰めのゲームなど
- ⑤ 立寄者数：約6万人（休日）



〔刈谷ハイウェイオアシスでの様子〕



〔旅まつり名古屋での様子〕

(4) 地元新聞に鳥取県PR記事掲載【実施済】

中日新聞市民版に「鳥取県の春を追う旅」と題して、打吹公園の桜や開運神社など県中部を中心にPR記事を掲載しました。

- ① 内 容：野花梅溪や打吹公園の桜、開運神社などを紹介
- ② 掲載日：3月1日(木)
- ③ 掲載紙：中日新聞市民版

(5) 旅行会社と連携した誘客の取組【実施中】

JTBで実施中の「日本の旬」に併せ、愛知県・三重県・岐阜県内のJTB店頭で、鳥取県への宿泊を伴う旅行を成約された方に、抽選で県産品をプレゼントする「鳥取へ行こう！」キャンペーンを実施中です。

内 容：鳥取県内への宿泊を伴う旅行（4月1日（日）～6月30日（土）までに出発するものに限る）を成約された方に、抽選で県産品（鳥取和牛、二十世紀梨など）をプレゼントする。
各店舗に、PRポスターの掲示、チラシ配布により鳥取県をPRする。

2 経済界との交流、情報発信

(1) とっとりビジネスフォーラムin名古屋【実施済】

東海地方の企業に対して、鳥取県への進出や受発注の拡大、観光誘客の促進など図るため、フォーラムを開催しました。（※今回で5回目開催）

- ① 日 時：2月8日（木） 11時から13時30分まで
- ② 場 所：キャッスルプラザ（名古屋市中村区）
- ③ 出席者：東海地方企業99名（誘致企業、県内企業と取引のある企業、旅行会社等）、
県内関係者15名
- ④ 内 容：基調講演 エール株式会社 代表取締役 岡島 礼奈 氏
「人工流れ星がつくる未来」
交 流 会 参加企業との交流会



[基調講演の様子]



[交流会の様子]